

## O-060. マクラの高さと仙骨部褥瘡発生の関連性

(株)パシフィックウエーブ生命体睡眠環境開発研究所

○田中 啓介

**【目的】** 仙骨部に発生する褥瘡において、その発生原因のひとつである体圧に着目し、その体圧の増減がマクラの高さによって影響を受け、その褥瘡発生に大きく関わりをもっていることを検証した。

**【方法】** 被験者（健常者）10名をウレタンフォームマットレスの上に仰臥位を保ち、マクラとして8mm厚のウレタンフォームを重ねて高さ調整をした。まず、本人が心地良いと感じるマクラの高さを基本とし、それに1枚ずつウレタンフォームを重ね上げ、平均体圧及び仙骨部体圧の変化を調べた。更にマットレスの背上げを行った際、マクラがずれ下がり、その後フラットに戻した場合にも実質マクラの高さが変化するため、その場合も同様に調べた。

**【結果】** 全ての被験者において、マクラが高くなるにつれてほとんどの平均体圧と仙骨部体圧が増加することが認められた。

**【考察】** 心地よいと感じる高さのマクラを基本とし、それに24mmの高さアップをした場合の平均体圧の平均増加率は、102.45%であり、仙骨部体圧では117.37%となった。

**【まとめ】** 以上のことからマクラの高さと仙骨部体圧の因果関係は十分に存在することは明らかである。要するに心地よく感じるマクラの高さより高いものを使用した場合、仙骨部の褥瘡が発生しやすくなるということが考えられる。よって褥瘡の予防のためには心地よく感じる適切な高さのマクラを用いることが重要であるといえるのである。更に背上げ時、マクラがずり下がった場合、マクラを高くしたのと同様の状態となり、仙骨部の褥瘡を発生することになる。よって、介護者は背上げの度にマクラの位置を正すことによって褥瘡を減らすことに繋がると考えられる。

利益相反なし